

宮城県 東松島市の今



1・2 震災直後(1)と現在(2)の大曲浜・北上運河沿い。運河はきれいに片づけられていますが、現在も陸地にはがれきが積み上げられています。(写真奥) 3 日本三大溪の一つ「嵯峨溪(さがけい)」。震災で遊覧船などが被害を受けましたが、昨年10月に運航を再開しました。

東松島市は仙台市の北東に位置し、日本三景の一つである松島と面しています。震災時には人口4万3千人ほどのうち、死者・行方不明者は1,133人にも上りました。

震災から3年がたち、少しずつ復興は進んでいますが、がれきが片付いただけという場所が多くあるのが現実です。そう、まだ震災は終わっていないのです。

東松島市データ



東松島市は宮城県の県都仙台市の北東にあり、東は石巻市、南は太平洋に面しています。東北としては比較的暖かく風雨の少ない地域です。

- 面積 101.86km²
 - 人口 40,193人※
 - 世帯数 14,904世帯※
 - 名産 のり
- ※ 3月1日現在。

被災地に思いを寄せて…

震災から3年がたち、少しずつ復興は進んでいますが、熊本では被災地の情報に触れる機会が少なくなってきました。被災した皆さんが一番恐れているのは、震災のこと・被災地のことを私たちが忘れてしまうことではないでしょうか。まだ震災は終わっていません。これからも被災地に思いを寄せ続け、できることから一歩ずつ実行していきましょう。

Proud!
Japan

平成23年6月に10日間、東松島市に派遣され、戸籍などを扱う市民課で勤務しました。現地ではがれきの山を見たときは、悲惨な現状に鳥肌が立ち、言葉を失いました。

被災地を訪れて、現地の皆さんと関わったことで、災害の恐ろしさを身近に感じるようになりました。西日本に住む私たちは、同じ国内の出来事でもなかなか実感が湧きに



荒尾市職員
中山和也さん

チーム熊本での活動を振り返って

くいかもしれません。しかし、震災は私たちのすぐ身の周りで起こった出来事なのです。復興はまだまだ進んでおらず、時間・資金・労力などが不足しています。少しずつでもいいので、一人一人が被災地の皆さんのために何ができるかを考え、行動に移していけたらと思います。

派遣中、現地の人から「元気に生活しているところをまた見に来てください」と、度々声をかけられました。私も被災地のためにできることを実行し続けます。そして、現地の現状を知るため、近いうちに東松島市に行き、現地の皆さんに再会したいと思います。

東松島市は災害に強く安全なまち」「安心して笑顔で暮らせるまち」を目指し、内陸部への集団移転先の造成工事や災害公営住宅の建設・入居など市民の住宅再建を進めています。同時に、新しい地域コミュニティの形成・再構築のため、市と市民が一つになって協働で取り組む組織を立ち上げました。

3年前、持続可能で新たな

東日本大震災発生後、これまで東松島市に熊本県の皆さんから多くの支援をいただいています。熊本県・市町村職員による合同支援チーム「チーム熊本」が東松島市に派遣され、市役所での災害対応窓口業務などご協力いただきました。また、一般の皆さんにも市内でのボランティア活動などさまざまな支援をいただきました。ありがとうございます。

東松島市からの報告

ライフスタイルとなるモデル都市を目指し、東松島市は国の環境未来都市の認定を受けました。そして、昨年夏には野蒜海岸近くにメガソーラーが完成しました。

震災後、不通になり、代行バスでの運行が続くJR仙石線は鉄道路線を内陸部に移し、平成27年中に開通予定です。津波で被害を受けた農地や

漁港・河川海岸の堤防の復旧工事は現在も続いています。地域経済の担い手である市内の事業者たちもそれぞれの業種・分野で頑張っています。

まだまだ長く険しい復興への道のりですが、熊本県の皆さんに被災地・東松島のことを想い・記憶していただくことだけでも東松島市民の復興へのパワーになります。

熊本県と東松島市のご縁と絆がこれからも深まり続けることを願っています。



東松島市総務課
小山淳志さん

平成25年秋～



平成25年10月



東松島市では災害公営住宅として平成27年中におよそ1,000戸を整備予定で、入居見学会が行われています。ことし4月には、250戸ほどが完成し、順次入居を開始予定です。

震災で日本三大溪の一つ「嵯峨溪」にある遊覧船などが壊滅的な被害を受けました。しかし、観光客を受け入れる態勢を整え、「奥松島遊覧船」として運航を再開しました。

平成25年8月



奥松島「絆」ソーラーパークは復興と環境未来都市を支援する民間企業からの提案で実現しました。東京ドームとほぼ同じ広さの敷地に太陽パネル14,616枚が並べられています。

平成25年7～8月



海水浴場があった宮戸・月浜地区では、地域住民が、ガレキ撤去など海水浴客を受け入れる態勢を整え、日曜日限定で海水浴場を再開し、期間中(6日間)6,400人ほどが訪れました。

平成25年4月



九州に避難していた航空自衛隊のアクロバット飛行チーム・ブルーインパルス(松島基地所属)が帰還。「お帰り!ブルーインパルス」帰還イベントが行われ、多くの人でにぎわいました。

復興への歩み